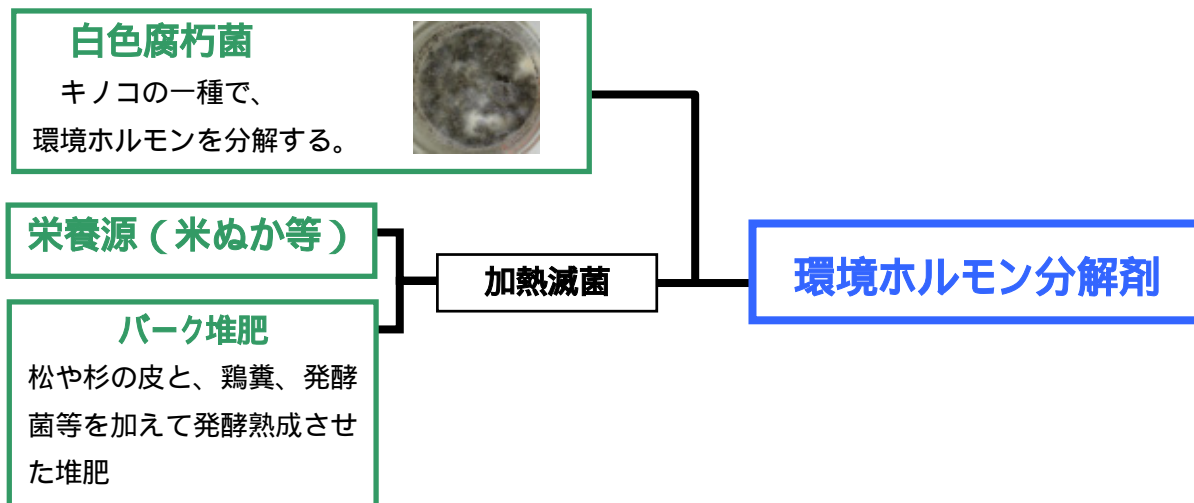


キノコで環境ホルモンを分解

キノコ（白色腐朽菌）とバーク堆肥を組み合わせ、試作した環境ホルモン分解剤を農地に散布し、土壌環境に影響がないことを確認しました。

環境ホルモン分解剤作製のフロー

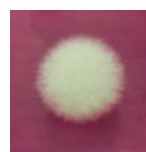


環境への影響評価

分解剤を農地に散布したときの土壌微生物の変化を調べました。

培養法による評価

変性剤濃度勾配ゲル電気泳動法
(DGGE法)による評価



培養法で検出された糸状菌

分解剤を散布しても、農地の土壌環境に影響を及ぼしません。

環境ホルモン分解能を持った土壌改良材としての製品化が期待されています。

この研究は、地域新生コンソーシアム研究開発事業として実施したものです。

(共同研究先) 愛媛大学 / (有)帝松サービス / 静岡大学 /
愛媛県農業協同組合連合会 / 井関農機(株) / 日本鋼管(株)

土壌中環境ホルモン分解剤開発研究

担当者：愛媛県工業技術センター 研究員 逢阪 江理